

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 生活系ごみ

- 【実施日】 平成27年8月31日（月）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 城西地区（南城西二丁目）
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
- 【備考】 防鳥ネット使用
- 【可燃収集曜日】 月曜・木曜
- 【想定条件】 分別等の意識が高いと思われる住居地域
- 【採取量】 204.5kg（集積所2か所分）
- 【気温（平均）】 21.5℃
- 【収集時間】 18分

② 事業系ごみ

- 【実施日】 平成27年8月28日（金）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【想定条件】 任意の搬入車両1台を調査
- 【採取量】 210.5kg（塵芥車1台積載量の半分程度）
- 【気温（平均）】 21.3℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 生活系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

② 事業系（可燃）ごみ

中間処理施設へ持ち込まれたごみを施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（2）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

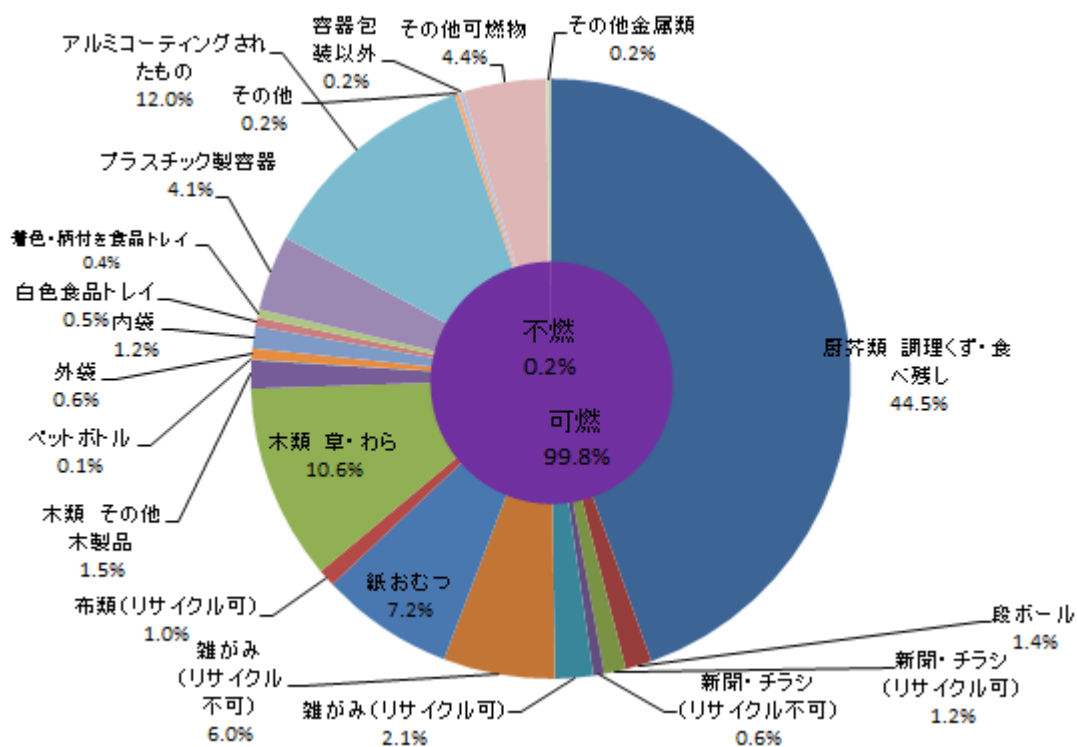
① 生活系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（44.5%）、「紙類」（18.5%）、「木類」（12.1%）、「プラスチック」（19.3%）の4種であり、全体の約94.4%を占めていた。

個別にみると厨芥類では「調理くず・食べ残し」（44.5%）が、紙類では「紙おむつ」（7.2%）、「雑紙（リサイクル不可）」（6.0%）が、木類では「草・わら」（10.6%）が、プラスチックでは「アルミコーティングされたもの（食品・菓子の袋等）」（12.0%）の構成割合が高かった。

全体の傾向としては、「紙類」の排出割合が低く、「木類」の排出割合が高い傾向が見られた。草刈りなどのものが多く含まれていたことが要因と思われる。



② 事業系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（40.0%）、「布類」（41.0%）、「木類」（14.4%）の3種であり、全体の約95.4%を占めていた。

個別にみると紙類では「段ボール」（20.7%）、「その他の紙/紙箱（リサイクル不可）」（10.3%）が、布類では「布類（リサイクル可）」（41.0%）が、木類では「その他木製品（割りばし、鉛筆等）」（14.4%）の構成割合が高かった。

全体の傾向としては、「布類」及び「紙類」の排出割合が高い傾向が見られた。縫製加工業から出る布類が多く含まれていたことが要因と思われる。

